

江戸のダンディズム

「刀から印籠まで」

2015年
5月30日(土)～7月20日(月・祝)
〔休館日〕月曜日、ただし7月20日(月・祝)は開館

根津美術館
NEZUMUSEUM



稲穂雁蒔絵大小拵(部分) 日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵

根津美術館では、コレクション展「江戸のダンディズムー刀から印籠までー」を開催いたします。

江戸時代、安泰な世の中になると、刀剣や拵こしらえには、公式に定められたもののほかに、持ち主の好みによって、約束事にとらわれない意匠を凝らしたものが出現しました。持ち主の身分や財力、教養や季節感を感じさせる、こだわりのアイテムとして発達したのです。刀身では、華やかな刃文が好まれたほか、刀身彫という、刀身に龍や剣などを彫刻する装飾的な志向が強まります。拵は、柄・目貫・鐔・小柄・筭・鞘など数多くのパーツによって構成されていますが、そこには季節の動植物や、故事に関するものなど多彩な主題があり、そのコーディネートが妙が見どころとなっています。またこれらの刀装具や鞘は、小さいながらも彫金や蒔絵、螺鈿などの優れた技術によって丁寧に作られており、細部に目を凝らすと珠玉の世界が広がります。

印籠や根付も、同じく男性の持ち物として、装飾性に富んだものが作られました。金や銀、玉や象牙など贅沢な素材をふんだんに使った、斬新なデザインの印籠や根付は、持ち主の好みを端的にあらわしています。

本展では、幕末から明治期の華やかな拵やバラエティ豊かな刀装具が多いことで知られる当館所蔵のコレクションから、選りすぐった約100点を展示いたします。江戸の伊達男たちを飾った、こだわりの品々をお楽しみください。

The World of Edo Dandyism
From Swords to *Inrō*

江戸のダンディズム —刀から印籠まで—



いなほにかりまきえだいしよこしらえ
稲穂雁蒔絵大小拵
1具
日本・江戸時代
19世紀
根津美術館蔵

末広がりの鞘の形と蒔絵のデザインの大胆さがあって、奇抜な印象の大小拵である。大刀には豊かに穂をつけた稲を、小刀には羽を広げた雁を金蒔絵であらわす。刀装具は農耕図と三保松原を題材として、豊穰の秋を表現している。



表



裏

ぼたんちちょうずつば かのおなつお
牡丹蝶図鐙 加納夏雄作
1枚
日本・江戸～明治時代 19世紀
根津美術館蔵

鉄地に牡丹の花を大胆に据え、花芯を独特の立体感のある彫りと金象嵌であらわした加納夏雄(1828-1898)の傑作。牡丹の薄い花弁がそよぎ、香り立つような風情である。加納夏雄は幕末の彫金の名工であり、維新後は帝室技芸員となった。



つばめにふじまきえいんろう はらようゆうさい
燕藤蒔絵印籠 原羊遊斎作
1合
日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵

満開の藤の花房と燕の飛ぶ様子を金銀の蒔絵で描き、初夏の季節感をよくあらわしている。作者の原羊遊斎(1765-1845)は、江戸時代後期を代表する蒔絵師である。



たんごまきえいんろう しばたぜしん
端午蒔絵印籠 柴田是真作
1合
日本・江戸～明治時代 19世紀
根津美術館蔵

幕末明治の名工、柴田是真(1807-1891)による大型の印籠。図柄は、軒先に端午の節句の幟を立てた農家の窓から、子供を抱いた農婦が歯黒売の行商を呼ぶ姿を描く。



(拡大)

わきざし はりまのだいじょうふじわらのしげたか えちぜんじゅう
脇指 銘播磨大掾藤原重高/越前住
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

よく鍛えられた目の細かい地鉄に、刃文はゆったりとした波を思わせる。刀身の腰に俱利伽羅龍が見事に透かし彫りされた、装飾性の高い脇指である。銘に見られる初代藤原重高(生没年不詳)は、江戸初期に活躍した刀工。



なみきえわきざしこしらえ
波蒔絵脇指拵

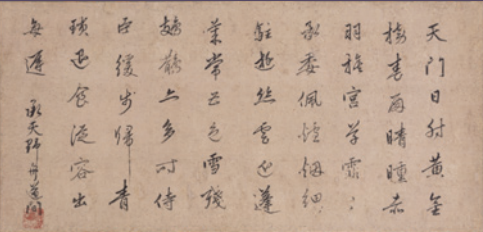
1口
日本・明治時代 19世紀
根津美術館蔵

鞘には、大きく幾重にも重なってうねる波濤を蒔絵であらわし、波頭に飛び散る水玉には、貝でつくった小さな玉をあしらっている。流麗な蒔絵の表現が見どころである。

同時開催

展示室 2 とうし 唐詩の書

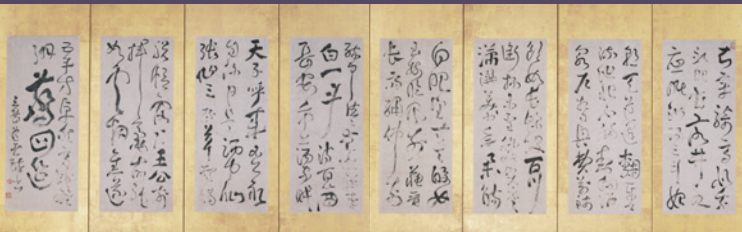
中国唐時代に作られた唐詩は、時代や国をこえて人々の共感をよび、愛されてきました。中国の禅僧や日本の文人たちによる唐詩の書をご覧ください。



せんせいであんよりたいちようしてばんにさえきよりいず やしゅうどうかん
宣政殿退朝晩出左掖 野舟道間筆

1幅
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

中国元時代の禅僧、野舟道間が杜甫の詩「宣政殿退朝晩出左掖」を書いたもの。唐詩は、禅僧にとって重要な知識であった。



いんちゅうはっせんか いけのたいが
飲中八仙歌 池大雅筆

8曲1隻
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

江戸時代の文人池大雅が、杜甫の「飲中八仙歌」をダイナミックな筆使いで表した屏風。詩中には唐時代に活躍した8人の人物の酔態を詠んでいる。

展示室 5 きたのてんじん えんぎ えまき 北野天神縁起絵巻(根津本) II

政争に破れた菅原道真が怨霊となり、天神として北野社に祀られた経緯と北野社の靈験を絵解きした絵巻。巻第四～六を展示する。



重要美術品 きたのてんじんえんぎえまき 北野天神縁起絵巻 6巻のうち巻第四～六(巻第六部分)
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

北野社の御利益で、貧しい銅細工師の娘2人のうち、姉は国司に娶られ、妹は宮仕えして幸せに暮らしたという。場面は姉の家の豪華な暮らしぶり(巻第六部分)。

展示室 6 さか 季夏の茶の湯

季夏は、陰暦六月の異称です。水をテーマにした茶道具や七夕にちなんだ作品など、梅雨の季節を楽しむ茶道具約20点を取合せます。



重要文化財 ねずみのちみわん 鼠志野茶碗
やま 銘山の端 美濃 1口
日本・桃山時代 17世紀
根津美術館蔵

鼠志野を代表する名碗のひとつ。茶碗の景色を、雨上がりの山の尾根に薄い雲が妨がる様子に見立てて、この銘がつけられた。



こそめつけろっかくさんすいもんみずつき
古染付六角山水文水次
景德鎮窯 1口
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

中国で日本人向けに焼かれた器。本体も蓋も六角形に作られ、ゆがんだ把手のかたちや、自由闊達な筆使いで描かれた山水文に妙味がある。

関連プログラム

- 講演会1 「江戸時代の刀剣について(仮)」
日時 6月6日(土) 午後2時～3時30分
講師 渡邊 妙子氏 (佐野美術館 館長)
- 講演会2 「日本刀の拵について(仮)」
日時 6月27日(土) 午後2時～3時30分
講師 高山 一之氏 (鞆師)
- ※会場はいずれも根津美術館講堂。(定員 各130名)
- (申し込み方法) 往復書に、参加を希望される催事名(講演会1または2)と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「江戸のダンディズム」展講演会係宛にお申込みください。
*「講演会1」は5月23日(土)、「講演会2」は6月13日(土)締切(当日消印有効)。
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復はがきでお申込みください。
- スライドレクチャー 日時 6月12日(金) 「刀装具について」講師 伊藤 満氏 (アフリカンアートミュージアム館長)
6月19日(金) 「コレクションの成り立ちと展覧会の見どころ」多比羅 菜美子 (当館 学芸員)
7月3日(金) 「北野天神縁起絵巻について(後編)」松原 茂 (当館 学芸部長)
※いずれも午後1時30分から約45分
場所 根津美術館 講堂 (先着130名)

※いずれも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別催事

- 催事1 「はじめての刀装具鑑賞 一魚々子を打ってみよう」
日時 7月4日(土) 午後2時～3時30分
講師 泉 公士郎氏 (日本刀文化振興会 刀装具研究委員会委員)
- 催事2 「はじめての刀剣鑑賞 マナーを学んで刀を持ってみよう」
日時 6月20日(土) 午後2時～3時30分
講師 飯田 慶雄氏 (日本刀文化啓蒙団体「鉄芸」代表、飯田高遠堂取締役)

※料金・申込方法などの詳細はHPまたは電話にてお問い合わせください。

開催概要

- 【展覧会名】 コレクション展「江戸のダンディズム 一刀から印籠まで」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2015年5月30日(土)～7月20日(月・祝)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし7月20日(月・祝)は開館
- 【入館料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
- 【アクセス】 2015年4月18日(土)～5月17日(日)尾形光琳300年忌記念特別展「燕子花と紅白梅」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



絵の音を聴く 一雨と風、鳥のさえずり、人の声一

2015年 7月30日(木)～9月6日(日)

絵の中からはたしてどんな音がきこえてくるでしょうか。
「目」を凝らして感じてください。

龍虎図屏風(左隻) 雪村筆 日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵